

【学校評価資料】

【学校評価資料】								総社小学校	
学校経営目標	具体的計画	令和6年度の達成基準	自己評価(中間)			自己評価(最終)			学校関係者評価
			達成状況	評価	改善策	達成状況	評価	改善策	自己評価の適切さ
1 心の教育の充実	【やさしい子】 ① <u>道徳教育、人権教育、総社っ子応援プロジェクトの取組を充実することにより、児童同士の絆や思いやりの心を育て、長期欠席・不登校やいじめの未然防止に努める。</u> ②「すきだ総社小学校運動」すすんで挨拶、きちんと歩行、だまって掃除を推進するとともに愛校心を育てる。 (総社を愛す子供)(心優しい子供)(礼儀正しい子供)	①思いやりの心をもって生活しているという回答が85ポイント以上である。 (児童・保護者・教職員) 【人間関係・特別支援教育】	○周りの人への優しさ 児童:87.7p ○周りの人の優しさ 児童:88.6p ○思いやり 保護者:84.5p 教職員:91.3p	B	評価はBではあるが、経年的に見るとよくなってきている。9月からも道徳教育やくすの葉の取組等を継続していくようにする。それに加えて、協同学習を授業の中で積極的に取り入れ、児童同士の結びつきを強めるようにしていく。	○周りの人への優しさ 児童:86.2p ○周りの人の優しさ 児童:88.1p ○思いやり 保護者:85.3p 教職員:89.5p	A	保護者のポイントが少し上昇し、保護者は思いやりの心をもって子どもたちが生活していると感じている。人権週間では、ペア学年の友達にくすの葉を書いたり、各学年で友達の良いところを認め合う活動に取り組んだりして、児童同士の結びつきを強めるようにした。道徳教育や協同学習も引き続き、積極的に取り組めるように教職員で共通理解していきたい。	自己評価は適切である。 中間報告から保護者の達成状況が向上しており、道徳教育の充実、くすの葉活動や児童のつながりを強める活動の推進などの取組が本結果につながっていると評価することができる。 今後も継続した取組に期待したい。
		②進んであいさつができていているという回答が85ポイント以上である。 (児童・保護者・教職員) 【人間関係・特別支援教育】	児童:83.6p 保護者:82.5p 教職員:91.3p	B	高学年が中心となって、朝のあいさつ運動が活発に行われているので、継続して取り組むようにする。また、児童が中心となって取り組む活動を教師がサポートすることで、朝以外の場面でも、あいさつ運動を主体的に行っているという意識を持たせるようにしていく。地域の方へのあいさつが少しできていないようなので、教師が呼びかけたり、下校のあいさつの様子を教師がくすの葉で紹介したりして、あいさつの輪を学校外でも広めるようにする。	児童:82.9p 保護者:82.3p 教職員:85.0p	B	委員会があいさつ運動を計画し、いろいろな学年が朝、あいさつ運動に意欲的に参加していた。また、昇降口だけでなく、ホール等でもあいさつが響くようになった。ただ、児童のポイントが少し下がっているのので、できたことをしっかり称揚し、児童が主体的にしていると感じるようにしていきたい。また、会釈もあいさつの一つだと伝えることで、声を出してのあいさつに抵抗を感じている人も取り組みやすいようにしていきたい。	自己評価は適切である。 改善策を中心に、引き続き学校・家庭・地域と連携した取組に期待したい。
2 健康・体力づくりの推進	【たくましい子】 ③健康教育、特別活動を充実することにより、児童に基本的な生活習慣を身に付けさせる。総社東中学校ブロックの学校園と連携し、ノーメディアの取組を推進する。 ④目標をもって主体的に体力づくりに取り組み、体力の向上を図るとともに最後まで粘り強く頑張る態度を育てる。	③感染症対策として手洗い、換気を行っているという回答が85ポイント以上である。 (児童・保護者・教職員) 【保健安全】	児童:88.6p 保護者:90.8p 教職員:87.5p	A	引き続き、場や状況に合わせて、手洗いや換気の声掛けを行っていく。	児童:86.4p 保護者:89.5p 教職員:84.7p	B	校内全体で換気に対する意識を高めるために、副校長の朝の放送で「手洗い・換気」の声掛けを入れ、各教室の実態に合ったタイミングで教室の換気を実施する。また、保健委員会による手洗いカードの取り組みを学校全体で意識して実施していく。	自己評価は「B」であるが「A」が妥当である。 ほぼ達成基準に達しており、継続した取組を評価することができる。現状に関する分析がなされ実態に合った改善策も示されている。 今後の取組に期待したい。
		④睡眠とメディアコントロールを中心に、基本的な生活習慣が身に付くように取り組んでいるという回答が80ポイント以上である。 (児童・保護者・教職員) 【保健安全】	児童:88.0p 保護者:82.2p 教職員:84.6p	A	家庭でのメディアのルールは、各家庭の考え方によるものが大きく、それをどうにかするというのは、家庭へかなり踏み込んでいかなければいけないため難しい。メディアのルールのお話をする際に、時間だけに注目するのではなく、メディアとの付き合い方におもきをおいた指導をしていくようにする。	児童:86.7p 保護者:80.6p 教職員:82.4p	A	メディア週間を中心に、引き続きメディアとの付き合い方について話をしていく必要があると感じている。運動などのメディア以外の過ごし方についても子どもたちに伝えていきたい。運動することで質のよい睡眠がとれることも、基本的な生活習慣の一つであることを伝えていく。	自己評価は適切である。 望ましいメディアとの付き合い方の習慣化が窺える。 今後も改善策を中心とし有効な取組を継続していただきたい。
		⑤自分から進んで運動しているという回答が80ポイント以上である。 (児童・保護者・教職員) 【保健安全】	児童:83.6p 保護者:83.2p 教職員:83.8p	A	昨年度よりポイントが下がっているのは、暑すぎたため、児童に積極的に外へ出るような声掛けをしにくい状況だったことが一因ではないかと考える。気候がよくなれば、外で遊ぶよう再び声掛けを行っていく。引き続き、運動委員会主催のチャレンジランキングに、学校全体で取り組んでいく。メディアコントロール週間に取り組んでいるメディアカードに「運動」に関する内容を新たに加えたことには効果があったため、引き続き取り組んでいく。	児童:82.8p 保護者:77.5p 教職員:81.0p	B	保護者のアンケート結果は、帰宅後の子どもの姿を見ての評価になっているようなので、質問項目に「学校や家庭や習い事で」をいれてはどうかという案が出た。年間を通して、運動への意識がもて、子どもたちが目に見える形で意欲がもてるような(なわとびカードなど)ものに引き続き取り組んでいきたい。	自己評価は適切である。 保護者の達成状況が低い点について多角的に分析を行い、改善策を検討していただきたい。保護者が児童のすべての様子を見ることが出来ない点に配慮した調査項目の設定の必要性も考えられる。
		⑥自分の考えや振り返りを書いているという回答が85ポイント以上である。 (児童・教職員) 【学力向上】	児童:84.7p 教職員:85.3p	B	教職員の意識と児童の意識に開きがなく、意識は高いと感じる。引き続き振り返りの視点を示し、振り返りの内容にも言及しながら進めていきたい。	児童:85.2p 教職員:85.5p	A	各学年、特に低学年でも振り返りを書くことができるようになっていく。また、わずかではあるが子ども達の意識も、教職員の意識も上昇した。引き続き振り返りの視点を掲示して、取り掛かりやすくしていく。	自己評価は適切である。 児童、教職員とも達成状況が向上しており、分析をもとにした教職員の取組とその継続を評価することができる。
3 確かな学力の育成	【すすんで学ぶ子】 ⑤児童が主体的・対話的で深い学びを実践し確かな学力を身に付けることができるように授業改善を行う。特に、考える活動や書く活動を重視する。 ⑥朝学習や総小チャレンジタイム、家庭学習の充実を図り、基礎学力の定着を目指す。	⑦国語と算数の単元テストの正答率8割以上の児童が、(低学年80%、中学年75%、高学年70%)80ポイント以上である。 (児童・教職員) 【学力向上】	教職員:81.5p	A	1学期は、基準を達成することができたが、学級や単元によって差があった。また、2学期以降に、学年ごとに難しい単元があることが分かっているため、今後も教材研究を行い、学年で学習の進め方を共通理解して行っていく。全国学力学習状況調査や岡山県学力学習状況調査での結果から分析した内容を、各学年で確認し、学力担当を中心に朝学習等で基礎学力の定着を目指す。	教職員:80.0p	A	評価は80ポイント以上を保っているが、各学年の中での開きがないとは言えない。また、どの学年も2学期は難しい単元があったため、単元によって、得点に開きがあるものもあった。学年で教材研究をする時間を設けるようにする。また、高学年では、朝学習を習熟度別に行っているため、それらを活用し、学力の底上げも図っていく。	自己評価は適切である。 児童のデータを基に教材研究を行う等教職員の取組の成果であると評価することができる。 今後も継続した取組を期待したい。
		⑧家庭で10分×学年+10分勉強しているという回答が80ポイント以上である。 (児童・保護者・教職員) 【学力向上】	児童:86.1p 保護者:85.0p 教職員:82.0p	A	基準を達成することができた。自主学習ノートの掲示をしていく。また、他校のノートや中学校のノート掲示も引き続き行い、啓発をしていく。メディアコントロール週間などの期間を利用し、声掛けを積極的にしていく。	児童:85.6p 保護者:74.9p 教職員:81.9p	B	どの集団でも下がっている傾向にある。メディアコントロール週間の集計をもとに、懇談では個別に啓発をしていくようにする。自主学習の掲示を保護者にもアピールし、参観日等で参考にできるようにしていく。啓発の仕方も、紙とすぐーるを併用し、児童と保護者のどちらにも行き届くようにしたい。	自己評価は適切である。 保護者の意識を高めるための改善策が考えられている。 次年度以降、今年度の課題を踏まえて、保護者と連携した取組を期待したい。
		⑨学校から積極的に情報発信が行われているという回答が85ポイント以上である。 (保護者・教職員)	保護者:77.7p 教職員:86.6p	B	家庭では、各家庭の様子をその家庭の子を中心に評価されることが多いため、家庭では見られない学校での様子を学校だよりやHP、学級通信等で積極的に伝えられるよう教職員で共通理解のもと情報発信をしていく。「すぐーる」の活用も検討する。	保護者:86.4p 教職員:82.1p	B	「すぐーる」の活用が進み、効果的な情報発信を行ってきている。反面、「すぐーる」ではなく紙面での配布を求める保護者からの意見も多少寄せられている。「すぐーる」と紙面の配布・配信の選別については、今後も検討していきたい。HPでの学年の様子の掲載や、学級通信発行については、学年・学級によって差があるため、相対的に少ないと振り返っている教職員の肯定的評価が下がっている。	自己評価は適切である。 保護者の達成状況が大きく向上しており、教職員の取組の成果であると評価することが出来る。 今後も継続した取組を期待したい。
4 地域とともにある学校づくり	⑦各種の便り、ホームページの更新、学校評価、学校公開等により、積極的に情報を発信する。 ⑧きらめきEASTの幼稚園、小・中学校や家庭・地域・関係機関等との連携を深め、児童の健やかな成長を図る。 ⑩安心・安全な学校生活を送るために、学校内外の安全確保の取組を行っているという回答が90ポイント以上である。 (児童・保護者・教職員)	児童:89.7p 保護者:84.8p 教職員:90.9p	B	保護者の回答の中に登下校の安全について、心配をしている意見があった。登下校時や下校後の危険な児童の行動等について、地域から連絡が入ることもあったので、その都度担当が指導を行った。通学路の危険箇所については、地区協議会から挙げられた資料を市へ提出している。登下校の安全については地区協議会と連携して対応していく。	児童:87.9p 保護者:88.1p 教職員:89.5p	B	登下校の安全指導については、保護者アンケートでも感謝を記述されているものもあった。学校での安全については、児童アンケートで「ルールを守って安全に生活している」という項目のポイントが低かったため、生活委員会等の活動を継続して行うことで児童の安全意識を高めていきたい。	自己評価は適切である。 今年度も教職員が相互に協力した熱心かつ継続した取組について十分評価することができる。 今後も継続した取組を期待したい。また、地区協議会との連携についても期待したい。	